

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2373900345		
法人名	有限会社ジェイス・パック		
事業所名	グループホーム「白寿の里」1F		
所在地	愛知県稲沢市正明寺一丁目2-15		
自己評価作成日	令和 2年12月 5日	評価結果市町村受理日	令和 3年 1月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigoyosoCd=2373900345-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigoyosoCd=2373900345-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和 2年12月25日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

はだか祭りでは有名な国府宮神社が近くにあり、緑豊かな公園が点在しています。四季折々の草花が公園ばかりではなく、御近所の庭先にもみられ手入れされた草花、植木等を散歩の際に楽しみ四季の移り変わりを感じる事ができます。施設生活がより充実したものになりますよう、お花見、夏祭り、運動会、クリスマス会などの行事、はだか祭りでは、はだか男の休憩所として施設を提供している為他では体験することが少ない交流もあります。個人個人にあったやり方で気ままに気楽に暮らすことのできる「アットホーム」な介護の実現に力を入れています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

管理者の目指す「アットホーム」なホームづくりが進んでいる。調査当日の午後に行われたクリスマスパーティーの一部を紹介する。  
パーティーに先立つ昼食は、配食業者の計らいでケチャップご飯に若鳥のソテーがメインディッシュであった。温野菜に野菜サラダ、スープ、デザートが添えられ、品数、量ともに豊富である。  
会場の1階リビングに、手作りの三角帽子を冠った利用者が着席する。サンタの格好の職員、動物の着ぐるみを着た職員、サンタの帽子の職員等々、皆気合が入っている。歌やクイズを楽しみ、メインの出し物は職員による二人羽織。顔一面にクリームが付いた職員、口紅で真っ赤な顔の職員に会場は大爆笑。職員の笛の演奏とプレゼントの贈呈でお開きとなった。瞬間の2時間であった。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	アットホームの理念に基づいて個々の生活のリズムを重視し共同で生活を心掛けている。	利用者一人ひとりが自由で思い思いに暮らし、職員は楽しく働いている。そんな「アットホーム」な雰囲気の漂うホームづくりに取り組んでいる。調査当日のクリスマスパーティーには、笑顔と笑い声があふれていた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	この地域の一大行事であるはだか祭りでは施設を休憩場所として提供し、交流の場としている。防災訓練では地域の方に協力を得て実施している。避難場所の提供をお願いしている。	下町情緒の漂うホーム周辺ではあるが、新型コロナウイルス禍によって人通りもまばらで、静まり返っている。新年恒例のはだか祭りも中止が決まり、ホームの地域交流は中断を余儀なくされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人からの相談、質問等があればその都度対応し認知症の人の理解や支援の方法を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度の運営推進会議はコロナ禍の為、開催していない。来所されたご家族に意見を聞き職員間で話し、サービス向上に努めている。	コロナ禍によって、今年度の運営推進会議はすべて書面開催となっている。会議メンバーに、ホームの運営状況を報告する文書を作成して送付している。	会議メンバーへの報告にとどまらず、意見を収集する取り組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃よりメール、電話にて連絡を取り合い施設の実情を伝え協力関係を築いている。	行政枠として、市・高齢介護課の職員と地域包括支援センターの担当者が運営推進会議のメンバーとなっている。今年度は書面開催のため、電話やメールで連絡・連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	交通量の多い道路が近く、施設の場所がわからない利用者も生活している為、安全を考慮し玄関の施錠をしている。施設内の移動は制限していないので利用者は1階、2階への行き来を自由に行っている。	直接的な身体拘束を必要とする利用者はおらず、会議では玄関の施錠や車いすの使用等、適否の判断が難しい事例を話し合っている。スピーチロックととれる発言に対しては、管理者が直接指導している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待につながる可能性があったり、虐待と受け止めてしまう可能性がある対応や行為が見受けられた場合日々の申し送りや話し合いで防止に努めている。アンガーマネジメントの研修に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	聴力が弱い方、意思疎通が困難な利用者に対し尊厳を保ち職員が変わって対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には管理者が重要事項の説明書をすべて読みながら説明している。御家族の不安や疑問に答え施設での生活の理解、納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族様の面会や電話があった際に、日常の様子をお伝えし、意見要望を伺い運営に反映させている。	コロナ禍によって、家族の面談を制限している。最も厳しかったときには、「全面的禁止」の措置をとったこともあるが、現在は玄関に場所を限定し、ガラス越しの面談を認めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	2か月に1回職員会議を開催しているが今年にはコロナ禍の為、不定期で開催している。何気ない会話から職員の意見、提案を聞ける様に、日頃から意見交換しやすい人間関係作りをしている。	通常であれば隔月に職員会議が開催されるが、コロナ禍による「3密」を避けるため、不定期開催となっている。アットホームな雰囲気であり、職員意見は日常的に管理者に伝わっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が代表者に密に相談報告できる体制であり、管理者職員個々の努力、実績、勤務状況を把握している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者より報告を受け職員一人一人の力量を把握している。力量の応じて研修を受ける機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム連絡協議会に加盟し同業者と交流する機会を持てるようにしている。また、研修、勉強会の案内を掲示している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者本人の不安を解消するために寄り添い、傾聴しながら様子観察を行い要望に応えられるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時に面談を行い、御家族からの不安や要望を伺っている。来所の際に利用者の様子をお伝えすることで、話しやすい関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、御家族からの不安や要望を伺い必要な支援を出来るように努めている。カンファレンスを行い情報を共有し日々の支援について意見交換をするとともに支援を見直す機会を持つようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	テレビを見て世間話をしたり、得意だった事など教えてもらったり等、何気ない会話を大切にしています。食器拭きや洗濯もの畳を一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年に4回御家族へ手紙を送り、文字の書ける利用者には手紙にメッセージを添えてもらっている。病院受診など御家族の協力が必要になる為、不安のないように随時連絡を取り合い信頼関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルス感染症対策を取りつつ、御家族や友人との面会を実施している。面会に来られた方に来ていただくだけで安心されることを伝え気軽に来ていただける様に努めています。	利用者の外出を自粛しており、馴染みの場所の支援は行われていない。面会制限を設けており、馴染みの人との関係継続の支援も難しい状況である。	馴染みの人や場所の支援は当面期待できない。趣味や習い事等、利用者のこれまでの経験を活かした事柄にも着目した取り組みを期待したい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	季節の壁紙、カレンダー作りなどレクリエーションへの参加誘導を行い居室にこもりすぎないようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了しても、相談しやすい雰囲気の中で御家族、御友人の不安知りたい情報をいつでも必要に応じて提供し相談受けられるようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員一人一人が利用者の日々の行動や言動、表情に注意を払い穏やかな気持ちで接し本人からの思いや希望を把握できるように努めている。散歩に出かけたり趣味の創作活動行えるように支援している。	口の重い利用者に対しても、職員の側から積極的に話しかけ、思いや意向を把握しようとしている。世間話をしている折に、利用者が本音を口にすることもある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常の会話の中から得た情報は職員が共有する様に申し送りをしている。個人の生活歴を尊重するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の過ごし方、表情、体調の変化はその日の出勤者だけでなく申し送りをして職員全員が把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なカンファレンスの実施。職員からの意見交換、考え方を参考にし本人の現状に即した計画に近づくようにしている。	短期3ヶ月、長期6ヶ月の介護目標を定めた介護計画を作成している。3ヶ月ごとにカンファレンスを行って介護計画を見直しているが、状態の変化があったときには、その都度見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日勤帯は1日2回、夜勤帯はその都度生活の記録を記入している。特記事項は申し送りノートを作り、全職員が情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じて看護師が病院受診の付き添いをしている。馴染みの美容院への送迎、外出支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事にはボランティアの方に楽器演奏や歌、踊りなどをお願いしていたが今年はコロナ禍の為参加を中止している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月施設往診医による往診がある。体調の変化による臨時の受診も可能です。希望されるかかりつけ医の受診にも対応している。	利用者全員がホームの協力医をかかりつけ医として、往診による診療を受けている。新型コロナウイルス感染症への感染防止の観点から、定期受審の際は診察時間を短くして対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	生活の記録、申し送り、緊急時の電話等看護職にはタイムリーに細かな連絡相談できている。必要時には往診医の指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に救急カード、看護サマリーを渡し利用者の既往歴などを知らせています。早期退院できるように病院へ依頼し病院や御家族と適宜連絡を取り情報交換している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に御家族へ急変時の対応について確認し、状況に合わせ早めに相談、アドバイスを行っている。急変時における同意所にサインをいただき生活の記録に保管している。	ホーム開設時から、一貫して「ホームでの看取りはしない」方針を継続している。ホームのできるギリギリの状態まで支援し、病院や特養施設等の最も相応しい所に住み替えを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員が普通救命講習会 I を受講している。施設にはAEDが設置されている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年防災訓練を行い迅速に避難できるようにしている。防災訓練には地域の方にも参加してもらい利用者が避難する際に協力してもらえるようお願いしている。避難場所を提供してもらっている。	コロナ禍のため、市の了解を取った上で防災訓練(避難訓練)を中止している。災害発生時には、地域の協力が得られるよう依頼している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴、排泄には特に注意を払いプライバシーを損なわないようにしている。排便等の確認は他の利用者にわからないように確認している。	親しさのあまり、職員の言葉遣いが馴れ馴れしくなって、適切性を欠くことがある。管理者は、「アットホーム」な雰囲気の中にも、礼儀や節度を重んじることの大切さを指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	簡単な選択肢を提示してそこから決めてもらう事により、自己決定の支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人個人のペースに合わせて、入床して頂いたり居室内にて塗り絵や読書など自分の趣味をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望される方にはフェイシャルマッサージの施術を受けて頂いている。美容院へ行かれる方の支援、訪問理美容では個人の好みの長さや髪形にしてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者が同じテーブルを囲み、世間話をしながら食事をしている。利用者の気が向くときには、片付けをしてもらっている。	朝食は職員の手作りであるが、昼食と夕食は外部の配食業者のレトルト食を提供している。地域から採れたての野菜が届いたり、あるいは職員が持ち込んだりと、旬の野菜が食卓に上がる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、おやつは一人一人の食べやすい大きさにして提供している。ポカリスエット、お茶、ジュースを提供し一日に必要な水分摂取量を確保できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔内の清潔を保つようにしている。本人が出来る事は見守り、困難なところは介助をしている。義歯は夜間洗浄液につけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立されている方に対しては声掛け見守り、車椅子や足が不自由な利用者に対しては、排尿パターンをもとにトイレ誘導し、トイレで排泄をしてもらっている。	2階ユニットは排泄の自立度の高い利用者が多く、3名は布パンツで過ごしている。車いすや自立歩行が難しい利用者も、職員の介助を得てトイレでの排泄を継続している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	定期的な水分補給、食物繊維の多い食べ物を食べていただいたりしている。便秘が続いている方には、ベッドでお腹のマッサージをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時には洗顔フォームで洗顔、トリートメントなど個々に必要なケアをしている。湯船に入れない方は足浴をしながらのシャワー浴にて身体を温めている。	一日置き、週に3回の入浴を基本として支援している。特に拒否の強い利用者はおらず、くつろいだ入浴を楽しんでいる。入浴剤は使用していない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室で過ごされる際には快適に過ごせるように室内の環境、温度に注意を払っている。車椅子の方も様子を見て身体を休めれるように昼寝の時間を作っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	未排便の日数により下剤を使用する方、薬の変更をする方を看護師とその日のスタッフで確認し症状が改善するように支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	相撲、歌など好みの番組がある時にはテレビを観て楽しんでもらっている。塗り絵、貼り絵など職員と作品作りを楽しんでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為、お花見、紫陽花祭り、イチヨウ祭りは中止しています。近所への散歩は利用者の希望があれば出かけるように支援している。	利用者の意向に沿った個別外出や集団での企画外出は自粛しており、天気の良い日のホーム周辺への散歩が日課となっている。ホーム内での活動を工夫し、外出できないことの弊害を防止している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は金庫で預かり管理している。利用者が使いたい時に使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があれば自ら電話をかけて頂いている。電話をかけれない利用者は管理者から電話をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月のカレンダーを手作りしたり、季節ごとに壁飾りを貼ったりと季節感を取り入れアットホームな雰囲気を作れるように工夫している。	リビングと食堂が別々に配置されている。利用者と職員が共同制作し、毎月時節に合った作品を壁面に掲示している。調査当日はクリスマスパーティーが催され、壁面はクリスマスバージョンであった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の向いたときに食堂の椅子、フロアの椅子へと自由に移動して過ごしている。椅子の数を多くしてあり、移動途中にも少し足を休められるように椅子を配置してある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた好みのもを居室内に置いてある。安全に居室内で過ごせるように必要な物をスッキリとまとめてある。	居室には造りつけのクローゼットがあり、そのため整理整頓が行き届いている。家族の協力もあって、使い慣れたたんすやテレビが持ち込まれ、居心地の良い居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所を分かりやすく表記している。バリアフリー設計で手すりを掴んで安全に移動できる。トイレ、浴室には非常ボタンが設置されており、必要な方には居室内にナースコールを配置してある。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2373900345		
法人名	有限会社ジェイス・パック		
事業所名	グループホーム「白寿の里」2F		
所在地	愛知県稲沢市正明寺一丁目2-15		
自己評価作成日	令和 2年12月 5日	評価結果市町村受理日	令和 3年 1月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigvosyoCd=2373900345-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigvosyoCd=2373900345-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和 2年12月25日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

はだか祭りでは有名な国府宮神社が近くにあり、緑豊かな公園が点在しています。四季折々の草花が公園ばかりではなく、御近所の庭先にもみられ手入れされた草花、植木等を散歩の際に楽しみ四季の移り変わりを感じる事ができます。施設生活がより充実したものになりますよう、お花見、夏祭り、運動会、クリスマス会などの行事、はだか祭りでは、はだか男の休憩所として施設を提供している為他では体験することが少ない交流もあります。個人個人にあったやり方で気ままに気楽に暮らすことのできる「アットホーム」な介護の実現に力を入れています。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	アットホームの理念に基づいて個々の生活のリズムを重視し共同で生活を心掛けている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	この地域の一大行事であるはだか祭りでは施設を休憩場所として提供し、交流の場としている。防災訓練では地域の方に協力を得て実施している。避難場所の提供をお願いしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人からの相談、質問等があればその都度対応し認知症の人の理解や支援の方法を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度の運営推進会議はコロナ禍の為、開催していない。来所されたご家族に意見を聞き職員間で話し、サービス向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃よりメール、電話にて連絡を取り合い施設の実情を伝え協力関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	交通量の多い道路が近く、施設の場所がわからない利用者も生活している為、安全を考慮し玄関の施錠をしている。施設内の移動は制限していないので利用者は1階、2階への行き来を自由にしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待につながる可能性があったり、虐待と受け止めてしまう可能性がある対応や行為が見受けられた場合日々の申し送りや話し合いで防止に努めている。アンガーマネジメントの研修に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	聴力が弱い方、意思疎通が困難な利用者に対し尊厳を保ち職員が変わって対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には管理者が重要事項の説明書をすべて読みながら説明している。御家族の不安や疑問に答え施設での生活の理解、納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族様の面会や電話があった際に、日常の様子をお伝えし、意見要望を伺い運営に反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	2か月に1回職員会議を開催しているが今年にはコロナ禍の為、不定期で開催している。何気ない会話から職員の意見、提案を聞ける様に、日頃から意見交換しやすい人間関係作りをしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が代表者に密に相談報告できる体制であり、管理者職員個々の努力、実績、勤務状況を把握している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者より報告を受け職員一人一人の力量を把握している。力量の応じて研修を受ける機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム連絡協議会に加盟し同業者と交流する機会を持てるようにしている。また、研修、勉強会の案内を掲示している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者本人の不安を解消するために寄り添い、傾聴しながら様子観察を行い要望に応えられるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時に面談を行い、御家族からの不安や要望を伺っている。来所の際に利用者の様子をお伝えすることで、話しやすい関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、御家族からの不安や要望を伺い必要な支援を出来るように努めている。カンファレンスを行い情報を共有し日々の支援について意見交換をするとともに支援を見直す機会を持つようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	テレビを見て世間話をしたり、得意だった事など教えてもらったり等、何気ない会話を大切にしています。食器拭きや洗濯もの畳を一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年に4回御家族へ手紙を送り、文字の書ける利用者には手紙にメッセージを添えてもらっている。病院受診など御家族の協力が必要になる為、不安のないように随時連絡を取り合い信頼関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルス感染症対策を取りつつ、御家族や友人との面会を実施している。面会に来られた方に来ていただくだけで安心されることを伝え気軽に来ていただける様に努めています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	季節の壁紙、カレンダー作りなどレクリエーションへの参加誘導を行い居室にこもりすぎないようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了しても、相談しやすい雰囲気の中で御家族、御友人の不安知りたい情報をいつでも必要に応じて提供し相談受けられるようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員一人一人が利用者の日々の行動や言動、表情に注意を払い穏やかな気持ちで接し本人からの思いや希望を把握できるように努めている。散歩に出かけたり趣味の創作活動行えるように支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に情報提供書を作成し職員が共有できるようにしている。普段の会話の中で特に昔話を大切に聞き、今までの生活に近い暮らしをして頂ける様に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の日々の生活リズムを崩さないように食事、排泄、入床の時間に気を付けています。食器拭き、洗濯量など自発的におこなっていただいています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の申し送りで気づいた点があれば話し合いを行い、介護計画の見直しをしています。カンファレンスを行い、モニタリングをし、利用者の現状に変化した介護計画を作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日勤帯は1日2回、夜勤帯はその都度生活の記録を記入している。特記事項は申し送りノートを作り、全職員が情報を共有している。生活の記録で情報を介護計画に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	誕生日会の外食やお花見など、利用者の状況に応じて柔軟なニーズに応えられるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事にはボランティアの方に楽器演奏や歌、踊りなどをお願いしていたが今年はコロナ禍の為参加を中止している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月施設往診医による往診がある。体調の変化による臨時の受診も可能です。希望されるかかりつけ医の受診にも対応している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	生活の記録、申し送り、緊急時の電話等看護職にはタイムリーに細かな連絡相談できている。必要時には往診医の指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に救急カード、看護サマリーを渡し利用者の既往歴などを知らせています。早期退院できるように病院へ依頼し病院や御家族と適宜連絡を取り情報交換している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に御家族へ急変時の対応について確認し、状況に合わせ早めに相談、アドバイスを行っている。急変時における同意所にサインをいただき生活の記録に保管している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員が普通救命講習会 I を受講している。施設にはAEDが設置されている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年防災訓練を行い迅速に避難できるようにしている。防災訓練には地域の方にも参加してもらい利用者が避難する際に協力してもらえるようお願いしている。避難場所を提供してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として利用者に敬意をもって接しています。入浴、排泄には特に注意を払い羞恥心の配慮を心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	季節の行事企画の際、利用者の思いや希望を取り入れながら企画実行しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、入浴は職員のシフト上決まった時間に行っているが、利用者の要望にできるだけ対応するようにしています。入浴日以外でも入浴可能な対応をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に一度、メナードのフェイシャルマッサージの施術を受けて頂いてる。ネイルを施したりおしゃれ気分を楽しんでもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べやすいように、お粥、刻み食、トロミ付けの対応をしています。下膳や食器拭きを一緒に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日1500ml以上の水分摂取が出来るよう、時間配分をしたり飲み物の種類を増やしたりと工夫しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔内の清潔を保つようにしている。本人が出来る事は見守り、困難なところは介助をしている。義歯は夜間洗浄液につけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を参考に排泄パターンを把握、利用者一人一人の時間に合わせ声掛け誘導を行いトイレでの排泄を支援しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ラジオ体操の参加を促し、職員と一緒に身体を動かしている。水分補給をまめに行っている。下剤の調整はその都度、状態に合わせて看護師に相談し行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴はシフトの関係で時間が決まっていますが、利用者の体調や要望に合わせた入浴日の変更を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室で過ごされる際には快適に過ごせるように室内の環境、温度に注意を払っている。いつでも休息が取れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬、服薬忘れがないか注意を払い、その後も利用者の体調変化の把握に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の好みや得意なことを把握し、お手伝いなどで役割を持った生活をして頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気の良い日は近くの公園、神社に散歩に出かけています。家族が迎えに来られ、外食に出かける方もいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は金庫で預かり管理している。家族との話し合いでお金を自分で管理されている方もいます。散歩に出かけた際に、コンビニで買い物ができるように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望に応じて電話をかける事が出来る。手紙のやり取りができるように、文字や文章を書く練習をレクリエーションに取り入れている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節事の壁画を一緒に作成しています。フロアーにひな人形、兜、クリスマスツリーなど飾り、鑑賞することによって、季節感を感じて頂ける様にしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアーにはソファを配置し、気の合ったもの同士が談笑されています。テーブルでは共同作業を行ったりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具、寝具、化粧品や好みの小物などを持ってきていただき居心地よく過ごして頂ける様にしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー設計で手すりを掴んで安全に移動できる。トイレ、浴室には非常ボタンが設置されており、必要な方には居室内にナースコールを配置してある。		